

学びの広場



京都市教育委員会
教員養成支援室
令和8年1月10日 No.7

第6回京都市教育学講座 指導室参与 初田 幸隆 先生

『教師としての自己に求められる資質能力とは

～自己理解を深め、課題と目標を明らかにする～』

第6回教育学講座では、総合教育センター指導室参与 初田幸隆先生をお迎えし、ご講義いただきました。今回の講座は、講義に加えロールプレイングを取り入れた構成です。講座の冒頭で、初田先生から『ロールプレイングやその後のグループ協議を通して、自分自身の人間関係力を見つめ直すこと』がねらいであることが示されました。実際に、小学校6年生の児童の遅刻指導場面や中学校の教育相談場面を想定し、担任役・児童生徒役・観察者などの役割を交代しながらロールプレイングに挑戦しました。ロールプレイング後には、児童生徒の心情や、指導を改善するとすればどのように変えるかなどをグループで振り返りました。こうした活動を通して、絶えず自分の行った指導や支援に対して子どもがどのように反応しているか振り返ることや、もう少しこうした方がいいのではないかと、自分の修正点に気付くことができるようになることの大切さを学ぶことができました。

また、児童生徒と向き合う中で、その子の言動や表情の裏側を探り、担任としての自分とその子の間に何があるのか—その本質的な部分への気付きがあることで、より多様なアプローチが可能になるということを実感することができました。



講義の最後には、初田先生から「自分自身がいかなる人間なのか、子どもの前に立ったときに、いかに対応しうる人間なのか。もしくは自分自身のどこを補強しておくべきなのか。」を振り返ってほしいとの言葉がありました。塾生のレポートには、ロールプレイングを通して見えてきた自分のよさや強み、教師をめざす上で今後伸ばしていきたいところ、そのために意識したいことや取り組みたいことが記されていました。こうした姿は、初田先生が語られた「この講座はゴールではなくスタート」という言葉を体現するものです。今回の学びを出発点として、自己理解を深める中で見えてきた自身の課題の克服や目標の達成に向けて、前向きに歩みを進めていってほしいと思います。

ロールプレイングや分散会の様子

仲間のレポートに学ぶ



このコーナーでは、「レポート集」に綴られた素晴らしい学びの1ページを紹介します。
ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。



今回の講義を通して、自分自身がいかなる人間であるのかを改めて考え、自分と向き合うことができた。特に、ロールプレイングを通して、他者と関わる際の自分の強みや課題を具体的に捉えることができた点が大きな学びであった。

ロールプレイングを行う中で、自分の良い点として、人の話を聞く際の表情や視線が挙げられると感じた。実際に、同じグループの人から「話しやすい雰囲気よかった」と褒めてもらい、相手が安心して話せる空気をつくることができていたのだと実感した。このように、相手の話を受け止める姿勢は、今後も変わらず大切にしていきたい自分の強みである。

一方で、課題としてはコミュニケーション能力が挙げられると感じた。対話の中で、相手の意見や考えをより深く引き出すための、「話したい」と思える問いを生み出すことに難しさを感じた。特に、生徒に複数の選択肢を与え、自分の考えを選びながら話すことができるような問いを作ることが難しいと感じた。一方的に教員側が話してしまうと、生徒自身の本音や内面の思いを聞き出すことは難しくなってしまう。今後は、自分の良さである「話を聞く姿勢」はそのままに、語彙や表現のボキャブラリーを増やしつつ、生徒一人一人に合った問いを適切に投げかけられるようになりたいと考える。

私は将来、生徒の話を丁寧に聞くことのできる教師になりたいと考えている。そのためには、生徒主体となる問いを工夫することに加え、表情や視線、頷き、一つ一つの言葉掛けなど、安心して話せる雰囲気づくりにさらに意識を向けていきたい。生徒の話を聞くことは、その子どもの思いや悩み、困りごとを知ることにつながり、個々の生徒を理解するだけでなく、学級全体の様子を把握することにもつながると考える。

今後は、学ボラや個別指導の塾での経験を通して、一人一人の子どもと丁寧に向き合いながら、実践を重ねることで、自分のボキャブラリーや問いの引き出しを増やし、状況や個に応じた関わりができるよう、自身の人間関係力や対話力をさらに高めていきたい。

講座を通して自分自身と向き合えることができたようですね。ロールプレイングでは、話を聞く際の表情や視線がよくて「話しやすい雰囲気よかった」とグループの人から伝えてもらったようですね。これからも安心して話ができる雰囲気づくりを大切にする姿勢を意識していこうと考えられたようですね。課題としては相手の意見や考えをより深く引き出すための、「話したい」と思える問いを生み出すことを考えられたようですね。目指す教師像としては、生徒の話をていねいに聴くことのできる教師を考えておられますね。それに向けて、生徒主体となる問いの工夫や表情・視線、頷き、言葉かけなど、安心して話せる雰囲気づくりに、より一層の意識をもっていこうと考えられたようですね。これからますます実践力を高めていかれることを応援しています。

～クラス担当スタッフからのコメント～

第27回 京都市総合教育センター 教育研究発表会



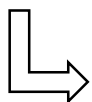
※第20期京都教師塾のフィールドワークとして位置付けています。

令和8年2月13日(金)14:10～17:00、当センターにて教育研究発表会を開催。

次期指導要領を展望し、現在の教育課題に即応する3つのテーマ

「教師の成長と学校」「(小)教科での探究的な学び」「(中)総合的な学習の時間の充実」
について実践的な研究内容を報告。

下記の二次元コードから内容の予告動画や申込サイトに移動できます。



どうぞご参加ください！

